

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	統計学		
担当教員	東 秀孝		
学年	3年	学科	昼間部 作業・理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	統計学とは、集団の特性を探る学問であります。物事を合理的に考えたり、医療研究を理解する為にも必要であります。統計学の基礎的な概念や考え方を理解していきます。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの形 2. データの整理 3. データの代表値 4. データの散らばり 5. 分散と標準偏差 6. データの相関 7. 確率 8. 確率分布 9. 統計的推理 10. 2群の比較、カイ2乗検定 11. 脳活性化リハビリテーション② 12. 回帰分析、分散分析 13. エクセルを使用して演習問題 14. エクセルを使用して演習問題 15. エクセルを使用して演習問題 		
教科書	使用しない		
参考書	資料		
評価方法	出席状況、レポート提出、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	理学療法セミナー		
担当教員	村上 彰宏		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数		時間数	30(15)時間
学習目標	国家試験に必要なとなる基礎専門分野の知識を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験対策 解剖学① 2. 国家試験対策 生理学① 3. 国家試験対策 運動学① 4. 国家試験対策 解剖学② 5. 国家試験対策 生理学② 6. 国家試験対策 運動学② 7. 国家試験対策 運動学③ 8. 国家試験対策 解剖生理学 脳神経 9. 国家試験対策 解剖生理学 内分泌 10. 国家試験対策 解剖学③ 11. 脳活性化リハビリテーション② 12. 国家試験対策 3科目② 13. 国家試験対策 3科目③ 14. 国家試験対策 3科目④ 15. 国家試験対策 3科目⑤ 		
教科書			
参考書	『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 臨床医学 2019』 (医歯薬出版) 『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 基礎理学 2019』 (医歯薬出版) 各種国家試験問題集		
評価方法	出席状況・課題学習への取り組みを総合的に評価する。		
備考	各講の概要を教科書で確認するとともに、国家試験問題の解答、解説作りを通じて、ポイントを整理して理解を深めよう。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価学Ⅲ		
担当教員	三吉 舞子 ・ 今野 哲男		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	正常な姿勢・動作についての理解をもとに、疾患特有の姿勢・動作についての知識と観察評価について学修する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 姿勢制御のバイオメカニクス① 2. 姿勢制御のバイオメカニクス② 3. 姿勢制御のバイオメカニクス③ 4. 姿勢制御のバイオメカニクス④ 5. 立ち上がり・着座の評価 6. 立ち上がり・着座の評価・演習 7. 寝返りの評価① 8. 寝返りの評価② 9. 起き上がりの評価① 10. 起き上がりの評価② 11. 歩行の評価① 12. 歩行の評価② 13. 歩行の評価③ 14. 歩行の評価④ 15. 歩行の評価⑤ 		
教科書	『観察による歩行分析』【著】キルステン ゲッツ・ノイマン（医学書院） 『動作分析 臨床活用講座』【著】石井慎一郎（メジカルビュー社）		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	レポート課題提出状況、筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	神経筋障害理学療法		
担当教員	三吉 舞子		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	1. 疾患別の病態、注意点、禁忌を学ぶ。 2. 疾患別の全体的な評価、理学療法の流れを学ぶ。		
授業計画	1. オリエンテーション、神経難病とは 2. 筋萎縮性側索硬化症 病態、評価、理学療法、留意点 3. 筋萎縮性側索硬化症 実技① 4. 筋萎縮性側索硬化症 実技② 5. パーキンソン病 病態、評価、理学療法、留意点 6. パーキンソン病 実技① 7. パーキンソン病 実技② 8. 脊髄小脳変性症 病態、評価、理学療法、留意点 9. 脊髄小脳変性症 実技① 10. 脊髄小脳変性症 実技② 11. 多発性硬化症 病態、評価、理学療法、留意点 12. ギランバレー症候群 病態、評価、理学療法、留意点 13. 重症筋無力症 病態、評価、理学療法、留意点 14. ケーススタディー 15. 国家試験対策		
教科書	『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』【著】丸山仁司（医歯薬出版）		
参考書	『理学療法テキスト神経障害理学療法学II（15レクチャーシリーズ）』【編】石川朗（中山書店）		
評価方法	筆記試験		
備考	実技の講義は上下ケーシーを着用してください。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	内部障害理学療法		
担当教員	久保田 千代美		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	呼吸理学療法は、内科系疾患・外科系疾患、急性期・慢性期を問わず様々な患者が対象となる。運動と呼吸・循環反応を学び、呼吸に関する病態を適切に理解し、リハビリテーションの方針を決定するための、基本的な知識と理解を深める。また、呼吸理学療法における基本技術の方法や実際の徒手の手技を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系の解剖 2. 呼吸器系の機能① 3. 呼吸器系の機能② 4. 呼吸機能の評価 5. 視診・触診 6. 聴診・打診 7. 呼吸器疾患(COPD)① 8. 呼吸器疾患(COPD)② 9. 外科術後の急性呼吸不全 10. 間質性肺炎 11. 肺炎 12. 気管支喘息 13. 呼吸理学療法① 14. 呼吸理学療法② 15. 国家試験対策 		
教科書	『ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション』【著】高橋哲也（羊土社）		
参考書	『病気が見えるvol.4(呼吸器)第3版』【編】医療情報科学研究所(メディックメディア) 『理学療法テキスト内部障害理学療法学 呼吸(15レクチャーシリーズ)』 【編】石川朗・玉木彰(中山書店)		
評価方法	筆記試験(前期試験と後期試験の合算で判定)、出席状況、授業態度		
備考	実技の際はTシャツなど薄手の上着を着用		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	脊椎・脊髄障害理学療法		
担当教員	今野 哲男		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	脊髄損傷に伴う病態とその障害を理解し、脊髄損傷に対するリハビリテーション全般を学び、社会復帰にむけた総合的な援助ができるようになることを目指す。 学習目標： 1, 脊髄損傷のための機能解剖理解 2, 脊髄損傷の理学療法知識・治療技術習得 3, 脊髄損傷のリハビリテーション理解		
授業計画	オリエンテーション 1. 脊髄損傷の疫学・発生機序・損傷脊髄の病理学 2. 脊髄損傷者の心理(障害受容) 3. 脊髄損傷の評価(Impairment評価・フレンケル分類・Zancolli分類・ASIAなど) 4. 脊髄不全損傷の理解のための機能解剖(神経伝導路) 5. 脊髄不全損傷の理解(前部型・後部型) 6. 脊髄不全損傷の理解(ブラウンセカール型・中心型) 7. 合併症①(自律神経障害:起立性低血圧) 8. 合併症②(自律神経過反射・体温障害) 9. 合併症③(呼吸障害) 10. 合併症④(関節拘縮・異所性骨化) 11. 合併症⑤(褥瘡) 12. 合併症⑥(排泄障害) 13. 胸腰髄損傷者の松葉杖歩行(装具療法を含む)の理解 14. 胸腰髄損傷者の松葉杖歩行の演習 (杖処方と評価・転倒訓練・小振り・大振り・ヒップハイキング・階段昇降) 15. 国試対策		
教科書	講師配付資料 『脊髄損傷 理学療法マニュアル』【編】岩崎 洋(文光堂)		
参考書	『頸髄損傷のリハビリテーション』【編】二瓶 隆一 他(協同医書出版) 『脊髄損傷マニュアルーリハビリマネージメントー』 【編】神奈川県リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会(医学書院) 『頸髄損傷者のための 自己管理支援ハンドブック』 【編】国立別府重度障害者センター頸髄損傷者自己管理支援委員会(中央法規)		
評価方法	出席状況・授業態度・レポート・小テスト学習・期末試験結果をもって単位認定の評価を行います。		
備考	正常動作とは異なる頸髄損傷特有な基本動作を体感する中で、習得することが大切です。知識のみの理解ではなく実践できる理学療法技術を身につけてください。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	日常生活活動学		
担当教員	古志 幸		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	<p>リハビリテーションを遂行するにあたり、対象者の活動レベルや能力の遂行状況を理解・整理してアプローチしていくことは必要不可欠なことである。</p> <p>本講では、日常生活活動をどのように評価していくのか、具体的な評価法、バーセルインデックスやFIM、その他の評価法を学び、また日常生活を遂行不可・困難にさせている原因を国際障害分類や国際生活機能分類で整理できるようにしていく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ADLの概念 2. ADLとQOLおよび国際生活機能分離(ICF)・国際障害分類(ICIDH)① 3. ADLとQOLおよび国際生活機能分離(ICF)・国際障害分類(ICIDH)② 4. ADL評価法(1)BI① 5. ADL評価法(2)BI② FIM① 6. ADL評価法(3)FIM ② 7. FIM演習 8. ADL評価法(4)その他の評価法 9. 床上動作・寝返り・起き上がりの介助 10. 移乗動作の介助 11. 移乗動作の誘導・介助法 12. 歩行・階段昇降の誘導・介助法 13. 基本的ADL①食事 14. 基本的ADL②整容・更衣 15. 基本的ADL③排泄・入浴 		
教科書	<p>『PT・OTビジュアルテキスト ADL』【編】柴 喜崇 (羊土社)</p> <p>『実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価 SIASとFIM(基礎編)』 【著】千野直一 他 (金原出版株式会社)</p>		
参考書	なし(資料として配付する場合があります)		
評価方法	期末試験・出席点・受講態度等。		
備考	第8講～第15講は実技です。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法技術論		
担当教員	江口 昌充		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	理学療法の基本的な治療技術を総合的に学習し、評価、治療技術について理解を深め、臨床上的での評価方法、治療技術について演習を行う。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、運動療法総論 2. 肩関節・肩甲帯の治療① 3. 肩関節・肩甲帯の治療② 4. 肩関節・肩甲帯の治療③ 5. 肩関節・肩甲帯の治療④ 6. 肩関節・肩甲帯の治療⑤ 7. 肩関節・肩甲帯の治療⑥ 8. 肘関節・前腕の治療① 9. 肘関節・前腕の治療② 10. 手関節・手指の治療① 11. 手関節・手指の治療② 12. 股関節の治療① 13. 股関節の治療② 14. 股関節の治療③ 15. まとめ 		
教科書	配布資料		
参考書	『実践PTノート—運動器障害の理学療法』【著】小柳磨毅（三輪書店） 『SJF 関節ファシリテーション』【著】宇都宮初夫（丸善出版） 『ステップス・トウー・フォロー』【著】Patricia M. Davies(シュプリングーフェアラーク東京)		
評価方法	期末試験 授業態度		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年																																														
科目名	臨床実習前教育学																																																
担当教員	岩崎 圭佑 ・ 久保田 千代美 ・ 三吉 舞子																																																
学年	3年	学科	昼間部 理学																																														
単位数	6単位	時間数	180(90)時間																																														
学習目標	ケーススタディーを使用し、評価実習に必要な臨床思考過程や根拠に基づいた評価項目の選択、問題点の抽出を学ぶ。																																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. レポートの書き方,SOAPの書き方</td> <td>24. 症例3 治療方法選択</td> </tr> <tr> <td>2. 症例1 病態理解</td> <td>25. 実技試験(反射・感覚検査)</td> </tr> <tr> <td>3. 症例1 評価内容抽出(1)</td> <td>26. 症例4 病態理解</td> </tr> <tr> <td>4. 症例1 評価内容抽出(2)</td> <td>27. 症例4 評価内容抽出(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 症例1 統合と解釈(1)</td> <td>28. 症例4 評価内容抽出(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 症例1 統合と解釈(2)</td> <td>29. 症例4 統合と解釈(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 症例1 問題点抽出</td> <td>30. 症例4 統合と解釈(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 実技試験(関節可動域)</td> <td>31. 実技試験(形態測定)</td> </tr> <tr> <td>9. 症例1 治療方法選択</td> <td>32. 症例4 治療方法選択</td> </tr> <tr> <td>10. 症例2 病態理解</td> <td>33. 症例4 問題点抽出</td> </tr> <tr> <td>11. 症例2 評価内容抽出(1)</td> <td>34. 症例5 病態理解</td> </tr> <tr> <td>12. 症例2 評価内容抽出(2)</td> <td>35. 症例5 評価内容抽出(1)</td> </tr> <tr> <td>13. 症例2 統合と解釈(1)</td> <td>36. 症例5 評価内容抽出(2)</td> </tr> <tr> <td>14. 症例2 統合と解釈(2)</td> <td>37. 症例5 統合と解釈(1)</td> </tr> <tr> <td>15. 症例2 問題点抽出</td> <td>38. 症例5 統合と解釈(2)</td> </tr> <tr> <td>16. 実技試験(徒手筋力検査)</td> <td>39. 症例5 問題点抽出</td> </tr> <tr> <td>17. 症例2 治療方法選択</td> <td>40. 実技試験(BRS、移乗動作)</td> </tr> <tr> <td>18. 症例3 病態理解</td> <td>41. 症例5 治療方法選択</td> </tr> <tr> <td>19. 症例3 評価内容抽出(1)</td> <td>42. 実技練習</td> </tr> <tr> <td>20. 症例3 評価内容抽出(2)</td> <td>43. 実技練習</td> </tr> <tr> <td>21. 症例3 統合と解釈(1)</td> <td>44. 実技練習</td> </tr> <tr> <td>22. 症例3 統合と解釈(2)</td> <td>45. 実技練習</td> </tr> <tr> <td>23. 症例3 問題点抽出</td> <td></td> </tr> </table>			1. レポートの書き方,SOAPの書き方	24. 症例3 治療方法選択	2. 症例1 病態理解	25. 実技試験(反射・感覚検査)	3. 症例1 評価内容抽出(1)	26. 症例4 病態理解	4. 症例1 評価内容抽出(2)	27. 症例4 評価内容抽出(1)	5. 症例1 統合と解釈(1)	28. 症例4 評価内容抽出(2)	6. 症例1 統合と解釈(2)	29. 症例4 統合と解釈(1)	7. 症例1 問題点抽出	30. 症例4 統合と解釈(2)	8. 実技試験(関節可動域)	31. 実技試験(形態測定)	9. 症例1 治療方法選択	32. 症例4 治療方法選択	10. 症例2 病態理解	33. 症例4 問題点抽出	11. 症例2 評価内容抽出(1)	34. 症例5 病態理解	12. 症例2 評価内容抽出(2)	35. 症例5 評価内容抽出(1)	13. 症例2 統合と解釈(1)	36. 症例5 評価内容抽出(2)	14. 症例2 統合と解釈(2)	37. 症例5 統合と解釈(1)	15. 症例2 問題点抽出	38. 症例5 統合と解釈(2)	16. 実技試験(徒手筋力検査)	39. 症例5 問題点抽出	17. 症例2 治療方法選択	40. 実技試験(BRS、移乗動作)	18. 症例3 病態理解	41. 症例5 治療方法選択	19. 症例3 評価内容抽出(1)	42. 実技練習	20. 症例3 評価内容抽出(2)	43. 実技練習	21. 症例3 統合と解釈(1)	44. 実技練習	22. 症例3 統合と解釈(2)	45. 実技練習	23. 症例3 問題点抽出	
1. レポートの書き方,SOAPの書き方	24. 症例3 治療方法選択																																																
2. 症例1 病態理解	25. 実技試験(反射・感覚検査)																																																
3. 症例1 評価内容抽出(1)	26. 症例4 病態理解																																																
4. 症例1 評価内容抽出(2)	27. 症例4 評価内容抽出(1)																																																
5. 症例1 統合と解釈(1)	28. 症例4 評価内容抽出(2)																																																
6. 症例1 統合と解釈(2)	29. 症例4 統合と解釈(1)																																																
7. 症例1 問題点抽出	30. 症例4 統合と解釈(2)																																																
8. 実技試験(関節可動域)	31. 実技試験(形態測定)																																																
9. 症例1 治療方法選択	32. 症例4 治療方法選択																																																
10. 症例2 病態理解	33. 症例4 問題点抽出																																																
11. 症例2 評価内容抽出(1)	34. 症例5 病態理解																																																
12. 症例2 評価内容抽出(2)	35. 症例5 評価内容抽出(1)																																																
13. 症例2 統合と解釈(1)	36. 症例5 評価内容抽出(2)																																																
14. 症例2 統合と解釈(2)	37. 症例5 統合と解釈(1)																																																
15. 症例2 問題点抽出	38. 症例5 統合と解釈(2)																																																
16. 実技試験(徒手筋力検査)	39. 症例5 問題点抽出																																																
17. 症例2 治療方法選択	40. 実技試験(BRS、移乗動作)																																																
18. 症例3 病態理解	41. 症例5 治療方法選択																																																
19. 症例3 評価内容抽出(1)	42. 実技練習																																																
20. 症例3 評価内容抽出(2)	43. 実技練習																																																
21. 症例3 統合と解釈(1)	44. 実技練習																																																
22. 症例3 統合と解釈(2)	45. 実技練習																																																
23. 症例3 問題点抽出																																																	
教科書	『統合と解釈がよくわかる実践！理学療法評価学』【監】上杉雅之【編】西守隆																																																
参考書	『理学療法臨床実習サポートブック』【著】岡田慎一郎（医学書院）																																																
評価方法	出席、出席態度、発表、提出物、実技試験等																																																
備考	実習と同様のため、実習着は必ず着用し、着用しない者は授業の出席を認めない。講義の事前準備は必ず行うこと。学生間で協力し、技術練習に取り組むこと。																																																

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	地域理学療法学		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	高齢者、障がい者の在宅生活が、医療・福祉制度の中でも重要な課題となっている現在、地域におけるリハビリテーションの概念や機能、理学療法士業務と役割、他職種の業務と連携の重要性、基本的な法制度について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・地域リハビリテーションの広がりとその社会的背景 2. 地域理学療法とは何か/「地域理学療法学」で学ぶこと 3. 福祉関連法的諸制度 4. 介護保険制度 5. 介護予防と社会資源 6. 行政における理学療法士の役割 7. 関連機関との地域連携 8. 生活者としての対象者 9. 介護保険サービスとその評価 10. 入所サービスの展開 11. 通所サービスの展開 12. 訪問における理学療法の展開 13. 介護予防の展開/地域における連携① 14. 地域における連携② 15. まとめ・国試対策 		
教科書	使用しない		
参考書	『図説 訪問リハビリテーション』【著】青山 智(三輪書店)		
評価方法	期末試験 授業態度		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	生活環境論		
担当教員	古志 幸		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	生活環境の実践に関わる用語についての基礎的な理解をし、理学療法学の概念より身体的特性と物理的環境の両面に関する基本的な知識や技術を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者・障がい者を取り巻く社会状況 2. 福祉住環境と介護保険 3. 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備(1) 4. 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備(2) 5. 障がい者別にみた福祉住環境整備(1) 6. 障がい者別にみた福祉住環境整備(2) 7. 障害のとらえ方と自立支援のあり方(1) 8. 障害のとらえ方と自立支援のあり方(2) 9. 高齢者に多い疾患別福祉住環境整備(1) 10. 高齢者に多い疾患別福祉住環境整備(2) 11. 障害別にみた福祉住環境整備(1) 12. 障害別にみた福祉住環境整備(2) 13. 障害別にみた福祉住環境整備(3) 14. 障害別にみた福祉住環境整備(4) 15. 国家試験対策 		
教科書	『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』（東京商工会議所）		
参考書	『地域リハビリテーション原論』【著】大田仁史（医歯薬出版）		
評価方法	出席状況、課題、試験により総合的に評価する。		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法国家試験演習		
担当教員	岩崎 圭佑		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
学習目標	国家試験に向けての一般的な評価、治療に関する知識の向上、自己勉強法の確立を図る。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自律神経 2. 消化器1(口腔・食道) 3. 消化器2(咀嚼・嚥下) 4. 消化器3(胃の構造と機能) 5. 消化器4(小腸・大腸の構造と機能) 6. 消化器5(肝臓・胆嚢の構造と機能) 7. 消化器6(膵臓の構造と機能) 8. 血液・リンパ・免疫 9. 内分泌系の機能 10. 肺の構造と機能 1 11. 肺の構造と機能 2 12. 心臓の構造と機能 1 13. 心臓の構造と機能 2 14. 腎臓の構造と機能 1 15. 腎臓の構造と機能 2 		
教科書	1～3年次の教科書すべて 『PT・OT基礎から学ぶ 解剖学/運動学/生理学ノート』（医歯薬出版）		
参考書	『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント PT実地問題 2019』（医歯薬出版） 『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 臨床医学 2019』（医歯薬出版） 『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 基礎理学 2019』（医歯薬出版）		
評価方法	筆記試験（前期試験と後期試験の合算で判定します。）		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法国家試験演習		
担当教員	今野 哲男		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
学習目標	国家試験に向けての一般的な評価、治療に関する知識の向上、自己勉強法の確立を図る。		
授業計画	16. 骨の構造と機能 17. 関節の構造と機能 18. 筋の構造と機能 1 19. 筋の構造と機能 2 20. 股関節の運動学 1 21. 股関節の運動学 2 22. 膝関節の運動学 1 23. 膝関節の運動学 2 24. 足関節・体幹頸部の運動学 25. 肩甲帯・肩関節の運動学 26. 肘関節・手関節・手指の運動学 27. 筋の神経支配 28. 姿勢と歩行・異常歩行 29. バイオメカニクス・動作分析 30. 運動学習		
教科書	1～3年次の教科書すべて 『PT・OT基礎から学ぶ 解剖学/運動学/生理学ノート』（医歯薬出版）		
参考書	『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント PT実地問題 2019』（医歯薬出版） 『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 臨床医学 2019』（医歯薬出版） 『ポケットマスター PT/OT国試 必修ポイント 基礎理学 2019』（医歯薬出版）		
評価方法	筆記試験 30点分/100 (前期試験と後期試験の合算で判定します。)		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	臨床評価実習(短期実習)		
担当教員	臨床実習指導者 教員		
学年	3年	学科	昼間部 理学
単位数	3単位	時間数	135時間
学習目標	<p>学生が将来、理学療法士としての役割と責任が果たせるように、臨床現場での対象者やリハスタッフ、その他の医療等関係者との関係を形成する重要な科目の一つであり、実習までに習得した知識・技術の実践の場として、さらに障がいを実体験する機会でもある。また理学療法士が行う治療を立案する上で重要な検査・測定等、評価のプロセスを理解する重要な機会でもある。</p>		
授業計画	<p>実習期間</p> <p>1期 2020年8月24日(月) ~ 2020年9月12日(土)</p> <p>2期 2020年8月31日(月) ~ 2020年9月19日(土)</p> <p>* 1期または2期のどちらかの期間</p>		
教科書	実習中は、これまで購入した教科書、参考書籍、講義資料等が必要である。		
参考書	実習指導者、教員等に必要な参考書籍、参考文献を確認すること。		
評価方法	実習指導者の評点、学内での報告、実習中のレポート、出席状況等を考慮し、評価する。		
備考			